

別府大学学生の携帯電話・パソコンの使用状況

皆 上 勝 哉

司書課程の省令科目「情報検索演習」では、パソコンを使用して情報の検索を行っている。受講学生のパソコン操作能力をみると、一部の学生を除いて簡単な文章作成ができる程度である。学生たちのパソコン操作能力は、数年前から叫ばれている IT 革命と相当かけ離れて低いように思える。一方、校庭や駅のホームで携帯電話を熱心に見入っている学生をよく見かける。禁止されている教室内、図書館内でもベルの音を聞く。更に、電車の中で度々放送されているにも拘わらず携帯電話を使用している若者が少なくない。これは若者に限らず年長者にもよく見かけるが.....

このような状況で、学生たちがパソコンや、携帯電話をどうとらえているのか興味があり平成14年11月末にアンケートを試みた。アンケート対象学生は、司書課程科目「情報検索演習」受講の2年次学生約70名、彼らは、1年次にパソコンを授業の中心とした「情報科学 I」を受講済みである。

偶々「毎日新聞」平成14年12月18日『九州・山口の世論特集:進む電腦生活』に発表されたパソコン・インターネット、携帯電話等の調査項目と重なる部分がありその調査結果とも比較してみた。

設問 1) あなたの通学は親元から、親元を離れてからの通学ですか？

- ①親元から ②親元をはなれてから

回答 ①17人 ②56人

設問 1) の目的は、親元からの通学であるか否かによって、携帯電話やパソコンの所持率、利用態様が大きく異なると考えたからである。親元からの通学なら、携帯電話があれば便利かもしれないが必ずしも必需品ではないし、使用料金も少ないであろう。パソコンも家族との共用も可能であるが、一人暮らしであれば必要であっても10数万円を投資するのは大変である。一人暮らしか否かによって、情報機器の所持形態は大きく変わると考えて設問とした。

設問 2) 携帯電話を持っていますか。

- ①持っている →設問 3 へ ②持っていない →設問 5 へ

回答 ①71人 ②2人

予想していた数字より遙かに高い比率で携帯電話を所持していた。自宅通学生では複数の学生が所持していないのではと予想していたがさにあらず所持していた。この比率は、前述の『進む電腦生活』の統計で20代の92%が所持していることからすると高い%である。しかし、携帯電話の所持年齢を10代後半から20代前半の若者だけの統計でみる事ができれば、92%よりもっと高い比率となると想定される。20代で最も交友関係を大切にする学生時代という年代だけをとらえた統計があれば比較してみたい。

ちなみに『進む電腦生活』の統計では携帯の年代別所持率は20代→92%、30代→82%、40代→69%、50代→61%、60代→37%となっている。

所持していない2人について、どちらも親元からの通学と思ったが、うち一人は親元を離れての通学生で、所持しない理由としてその必要性がないと回答している。

極端かもしれないが、最近増加の一途をたどっているホームレスにも携帯電話を持つ者が増えていると週刊誌に報じられていた。携帯は彼らにとって情報の発信・受信ができる唯一の手段となっている。そして音声通話だと料金が嵩むので、メールを使用し、バッテリー接続時間の長いPHSやメール料金の低いJ-フォンが多く使用されていると聞く。

設問3) 携帯電話を持っている理由

- ①なくてはならぬ必需品 ②あれば便利であるから

回答 ①60人 ②11人

97%の高所持率であれば、今更必需品であるか否かを問うこと自体無意味な気がする。親元を離れてからの通学生にとっては必需品であろうが、自宅通学生も必需品と回答した者が多い。このことは情報の発信・受信の即時性であろう。全ての情報は、リアルタイムで発信・受信されなければ、無価値になってしまうことを意味しているようである。

設問4) 先月の電話代はいかほどでしたか？

- | | | |
|------------|------------|-----------|
| 1 音声電話に | ① 3,000円未満 | ② 3～4,000 |
| | ③ 5～7,000 | ④ 8,000以上 |
| 2 iモードを含めて | ① 5,000円未満 | ② 5～6,000 |
| | ③ 7～8,000 | ④ 9,000以上 |

回答1 ①31人 ②15人 ③21人 ④ 3人

2 ①21人 ②17人 ③20人 ④12人

1 音声通話では、3,000円未満が多く4,000円未満までで半数弱を占める。2 iモードでは、5,000円未満までが58人であるが、9,000円以上使用する者が12人もいる。

NTTドコモの発表統計によると、平均で音声通話に毎月6,460円、iモードを含めると8,170円となっているが、本学生の使用料金は約半分である。友人との交友関係を最も大切にする年代であり、1日程度のアパート代金の支出で交友関係を維持できるとすれば妥当な出費であろう。

設問5) 携帯電話を持っていない理由

- ①必要がない ②無駄な経費 ③維持費等経済的な理由

回答 ①2人 ②0人 ③0人

二人のうち一人は親元から、一人は親元を離れての通学者である。親元からの通学であれば、リアルタイムで情報の発信・受信ができず、多少不便かもしれないが帰宅後には連絡は可能であり、携帯電話の必要はないかも知れない。親元を離れてからの通学であれば、学校内での「フェイス to フェイス」の連絡以外は不可能であり、非常に不便をしのいでいるか、今風の交友関係を持っていないの

か、のどちらかであろう。

設問6) パソコンを持っていますか

回答 ① 持っている 38人 (17:親元からの通学者)、(21:親元を離れての通学者)

② 持っていない 33人 全員親元を離れての通学者

所持、非所持は同数に近い。親元からの通学生全員がパソコンを所持している。即ち、通学者全員の家庭にパソコンが設置されていることを示している。非所持者の全員が親元をはなれての通学である。『進む電腦生活』の統計では、20代では73%の者が所持していると回答しているの、それから単純に比較するとかなり低い数字である。設問7)の如く必要と考えているが、経済的な理由により所持していないと回答して必要性は認識している。現時点ではまだ、就職情報入手の必要性や緊急度も低く3年次生後半から所持率も高まるようである。

設問7) パソコンを持っていない理由

① 今必要がないから ② 必要と思うが経済的な理由から

回答 ① 2人 ② 31人

設問8) インターネットへの接続は

① パソコンから ② 携帯電話から

① 12人 ② 40人 ③ 5人 無回答

インターネットへの接続形態は、パソコンを所持しているにも拘わらず、携帯からの接続が多い。接続料金を考慮しても、短時間の接続が殆どであり、腰を落ち着けての接続が少ないことは簡単な情報の入手で事足りていることを示している。

設問9) パソコンからインターネットへの接続の通信回線は

① アナログ回線 ② ISDN回線 ③ ADSL回線 ④ CATV回線 ⑤ その他

回答 ① 3人 ② 2人 ③ 3人 ④ 4人

接続形態は、『進む電腦生活』の統計ではブロードバンドが30%弱であるが、こちらでは50%を超えている。

①アナログ回線は親元からと親元を離れての通学生と半々であるが、②、③の固定電話方式と④CATVは接続に伴う制約や初期投資のため、親元を離れての通学生には無理である。②ISDN、③ADSL、④CATV回線使用は親元からの通学生であり、接続時間を気にせず長時間利用できることが使用時間にも反映している。

設問10) 就職したらコンピューターを使用することが多くなりますが、現在のコンピューター関連の授業だけで十分とおもいますか

- ① わからない ② 十分 ③ 不十分

回答 ①27人 ②4人 ③40人

④不十分の40に①わからないの27を加えると約95%が漠然とながら十分と考えていない。「情報検索演習」の受講者は、全員「情報科学Ⅰ」2単位を受講済みの学生であるが、タイピングにしても、原稿をみて、キーボードをみて、ディスプレイをみながら文字入力を行っている。メニュー機能、ファンクションキーの機能を十分に操作できない受講生も多く、少し長い文章作成には苦勞している様子である。

これからの高度情報化社会に対応するためにも、コンピュータリテラシー情報リテラシー関係の科目を最低4単位程度は、必修に近い科目として履修を課す必要がある。4単位程度の履修によってコンピュータリテラシー、情報リテラシーの基本的な知識を修得し、パソコンの習うより慣れろの自学自習への道も開けてくる。

設問11) 各種アプリケーションソフトのインストール、アンインストールが出来ますか

- ①はい ②いいえ

回答 ①26人 ②45人

①のはいが36%で、②のいいえが63%を超えている。アプリケーションソフトのインストールや設問12の周辺機器の接続・増設は、パソコンライフ必須の技能である。店頭で購入したパソコンで文書作成をしたり、インターネットを楽しむだけであれば、ソフトのイン・アンインストールは必要ないが、少しパソコンを積極的に使用しはじめると各種ソフトのインストール、インターネット上の各種ファイルやデータのダウンロードをしたくなる。またトラブルが発生したときの対処法、リカバリソフトの使用法、ウイルス対策の知識等もここに含まれる。

設問12) 周辺機器の接続・増設が出来ますか

- ①はい ②いいえ

回答 ①9人 ②57人 ③無回答 5人

パソコンを購入する際一緒に購入する周辺機器は、せいぜいプリンターくらいで後はその都度必要に迫られて購入するのが殆どである。最近ではハードディスクのメモリーも120ギガ、記録再生装置もDVD/RW内蔵のパソコンが販売されている。しかし数年前のパソコンではメモリーはせいぜい3～40ギガ、記録再生装置はCD/RW程度のパソコンが殆どで、現今の使用には十分対応しているとは言い難く、周辺機器の接続・増設を必要としてくる。ソフトのインストールや周辺機器の増設によって汎用機器であるパソコンとしてできることがさらに広がる。

設問13) パソコンの一週間の平均使用時間（学校と家庭の合計時間）

- ①7時間以内 ②8～14時間以内 ③15～21時間 ④21時間以上

回答 ①52人 ②5人 ③3人 ④4人

一週間の平均使用時間が、①7時間以内はまだ少ない使用時間であり、何か必要に迫られてパソコンを使用するのに限られるが、大半の学生はこの範囲内にある。②1日平均1時間以上2時間以内の使用では、パソコンをインターネット、メール、その他にある程度使用し、一般的な使用者であるといえる。③3時間以内④3時間以上の使用者達は、ヘビーユザーといえ、メールやインターネットをブロードバンドで十分楽しんでいると推測される。『進む電腦生活』の統計で家庭でのインターネットの利用時間は、1日1時間以内32%、1日1～3時間以内27%、1日3時間以上6%、2～3日に1回18%、1週間に1回程度11%となっている。

使用目的・内容はともかく、パソコンの商品価値は約3年、耐用年数5年程度とされている。10数万円以上のパソコンを購入して、一週間で2～3時間の使用では、元が取れないといえる。

以上本学学生と一般社会人の含まれる『進む電腦生活』の統計を比較して、高い%は、携帯電話の所持率であり、携帯電話の所持率以外では『進む電腦生活』の統計数値の方が高い%を示している。やはり、収入の限定されている学生にとって「電腦生活」では、経済的弱者としての姿を反映している。パソコンを購入したいと思っているが個人的に購入するにはまだ若干高額商品であることから所持していない。大学は学生にパソコンを何時でも利用出来るような環境を設定して、コンピュータリテラシー情報リテラシー関連の授業と平行して、今後の高度情報化社会に十分対応できる学生を養成する必要がある。

(あざかみ・かつや 別府大学非常勤講師)